

「錦江町と島津家の軌跡を歩む」

今月は、「三国名勝図会」からの情報をもとに制作しました。

今月は、先月紹介しました、三国名勝図会から田代地区の花瀬周辺を歩んでみたいと思います。

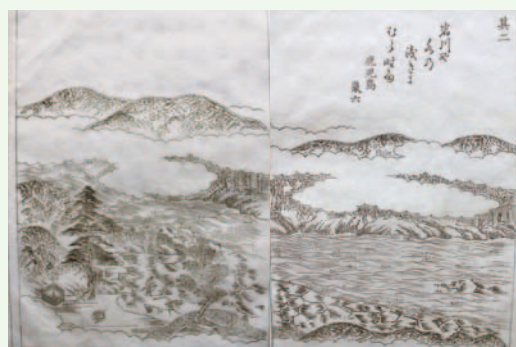
島津家にまつわる史跡として、田代地区の花瀬には19代光久、24代重年、28代斉彬がよく使用されたといわれるお茶亭跡や、三国名勝図会にも描かれている花瀬神社や花瀬川の石畳などが今でも残っています。

このお茶亭周辺は昔から桜・藤・ツツジ・カエデなど四季折々の景色が優れた場所でもあり、三国名勝図会にも「近隣の人を携え群遊し飲みの席をもうけ春は、曲水の宴、夏は石を枕にし涼む」など記載されています。

また、お茶釜の後が現在14個発見されていますが、三国名勝図会の文章の内容から見ると、それ以上にお茶釜も存在したのではないかと推測されます。お茶釜発見当初は、島津家の家紋

の入った器なども一緒に発見されたそうですが、現在は不明となっています。

島津家が数代に亘り、この花瀬を訪れた一つの理由として三国名勝図会にも描かれており、現在でも見ることができるところの花瀬川の素晴らしい石畳の景観ともなっています。花瀬川は大隅南部県立自然公園にも指定されており、約11万年前に阿多カルデラから噴出した阿多火砕流が堆積してできた一枚岩の石畳（溶結凝



三国名勝図会から花瀬



灰岩）とされています。三国名勝図会には幅三十余間（60m）、長さ七町五十六間（856m）と記載されていますが、大隅南部県立自然公園の資料を見ると幅100m、距離約2kmの一枚岩と書かれています。

花瀬川はこの一枚岩の石畳の上を流れる水がさざ波を立て、まるで白い花が流れているかのように見えることから花の瀬、花瀬川と呼ばれるようになったと伝えられています。

また、島津斉彬公が嘉永6年（1853年）11

月16日に各郡巡視の際、植えられた松が立派なものであったことから、大正10年（1921年）7月に当時の川原青年団が永く後生に伝えるため記念碑を二つ建て、副碑には、6月12日に城を出て、垂水・新城・花岡と回り、16日に大根占を出発し田代の花瀬に入ったなど記載されています。

来月は、島津家が手掛けた三国名勝図会の記述などから花瀬やその周辺を現代の生活や景観と比べながら歩んでみたいと思います。



錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げて行きたいと思います。町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課未来形成チームへご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げて行きたいと思います。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査に行きたいと思いますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel 0994-22-3032